

東京都世界結核デー記念講演会を実施して

東京都福祉保健局健康安全部
感染症対策課結核係

浦川 美奈子



東京都では、2月25日（水）午後2時より、アルカディア市ヶ谷において、「DOTSによる関係性の構築～結核の服薬支援を再考する～」をテーマに、世界結核デー記念講演会を開催しました。

DOTSについては、平成9年より山谷地域結核特別対策事業として、城北労働福祉センターの健康相談室において事業が開始されて以来、都内でも様々な取組みが行われてきました。今回、これらの取組み内容や事業の課題を発表いただき、全体の資源とすると共に、結核の回復者からも体験談をいただくことにより、支援のあり方を振り返る機会としたいと考えました。

まず、講演会の第1部では、WHO西太平洋地域事務局の大菅克知先生と結核研究所の石川所長から、アジア及び日本における結核対策やDOTSの課題・展望について基調講演をいただき、現在の結核をめぐる課題の共通認識を持つことができました。

第2部のシンポジウムでは、台東区からは原則として対象者すべて面接から始めるDOTS支援、新宿区から保健所DOTSと結核患者グループミーティング、城北労働福祉センターからAタイプ患者への9割を超える完了率となる支援、はごろも薬局での困難事例に対する薬局DOTSから見たこと、そして平成20年度開始された東京都DOTS支援員による家族も含めた支援等について具体的な報告がありました。

また、回復者本人からも初回治療時の服薬中断、

再治療時のDOTSにより治療完了まで至った体験談が報告され、Plan-Do-Seeの支援の流れやその時々々の患者の気持ち、そして治療結果まで、一連の環としてみることができました。



記念講演会開催の様子

このように、関係機関の多様で具体的な報告があり、さらに回復者よりDOTSが語られ、支援者側もその効果を実感できたことは、支援を進めていく上での大きな力になると感じました。

今回の講演会を実施し、今後の結核対策の推進に向けては、ユーザーの声や力が取り入れられるシステムの構築、そして、支援者がお互いにコミュニケーションを深め、それぞれが培ったものを共有するための場所と時間の必要性を強く感じました。

この講演会に御協力いただきましたすべての方に感謝いたしますとともに、今後の業務に生かしてまいりたいと思います。ありがとうございました。